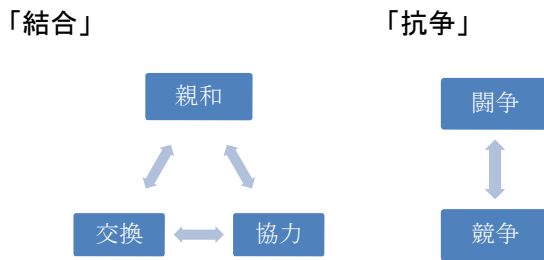


① 相転移 (Phase Transfer) の事例を検討する
相転移…相互行為における類型に変化が起きる



<結婚生活を例に>

Phase	前半	後半
親和	恋愛	第二の人生
↓ ↑	結婚 / 共働き	リタイア
協力	家計の分担	
↓ ↑	出産 / 離職	子独立 / 復職
交換	分業 (再生産 ⇄ 収入)	

- 結婚生活は Process において Phase を移行しなければ続かない、破局に至る
- 各場面で Dominant な事象によって判別
- 同じ Phase だとしても、様相は異なる
※若いカップルと熟年のカップルの「親和」は同様ではない → 「時間の不可逆性」
- この円環関係をはみ出す局面
e.g. 介護…支配（促進と阻害）の関係？

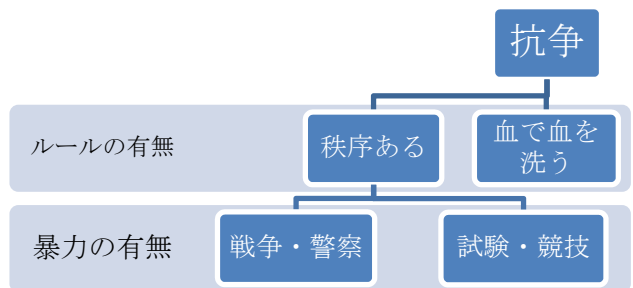
【問題提起】離婚調停での親権争い（子の奪い合い）は闘争に位置付けてよいのか？

→ 「抗争」という分類に関する再検討
（直接的阻害が「闘争」、間接的阻害が「競争」）

A案) 闘争の中でも、ルールの有無で分類できる
有…裁判や戦争 無…血で血を洗う

B案) ルールではなく、暴力の有無で分類する
有…血で血を洗う、戦争 無…裁判、外交

C案) そもそも「抗争」を直接／間接で区分するのではなく、ルール→暴力という順序で分類する



提示された観点や論点

- 国際法における「戦争」と「外交」の区分を導入
- 血で血を洗う、やくざの“抗争”に、ルールがないとは言えない。 →ルールは見えない？
- 暴力の可視性は判断するのに安定的

ポイント

- 何をより上位の分類項とするか
- 社会科学では理想的な観察者を想定する前提
→何がより観察可能で安定的な基準か？
（誰にとっても検証可能であるか）

- ② Conflict Theory (葛藤理論) と
 Functionalism (機能主義)
 ← 「社会」を説明する大きな二つの枠組
 (基本的に対立する社会観)

Conflict Theory	Functionalism
Karl Marx など	Talcott Parsons など
対立する利害、 共通利益のための団結	有機体論、予定調和 相互依存の多重化
常に抗争 (e.g. 領主 vs 農奴 → 資本家 vs 労働者)	結合 (逆機能もいずれは 調整される)
動機指向 自分の利得に従う	価値指向 社会の価値に従う
ゼロサム・ゲーム Win-Lose	非ゼロサム・ゲーム Win-Win

ポイント

- ・ 社会変化(を起こす要因)に関しては Conflict Theory の方が説明しやすい
- ・ 両者が完全に対立する理論かというところではない(見方や程度の問題)

※補足

相転移のその他の例として、以下も報告された。

- ・ 「親和」 サークル内で仲良くなる
 ↓ ↑
 「協力」 試合に勝つため努力する
- ・ 「闘争」 戦争
 ↓ ↑
 「競争」 軍拡/覇権争い
 ↓ ↑
 「協力」 軍事同盟